

令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 学習指導： ICTの活用を推進するとともに、探究型授業の充実をはかり、主体的に学ぶ生徒を育成する。	① 生徒が「予習→授業→復習」の学習サイクルを確立し、主体的に学習に取り組むようにする。	1, 2年生の平日家庭学習時間平均が3時間以上である生徒が A: 50%以上 B: 45%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	1 2月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 1年生: 36.5% (49.5%) 2年生: 44.6% (44.1%) 1, 2年: 40.6% (46.8%) 【達成度C】	・1, 2年生の値は、令和元年度36.8%→R2年度46.8%→今年度40.6%と変化した。R2年度が4, 5月に休校していたことを考慮し、コロナ前のR元年度と比較すると、2.8%の増加である。1年生は-4.4ポイント、2年生は+12.0ポイントである。3年生はR1:90.8%、R2:91.7%、R3:89.5%とほぼ同水準である。 ・昨年度は4, 5月に休校を経験したことで、生徒が例年より自宅学習に主体的に取り組んでいたと考えると、今年度はR元年度と同程度と考えられる。一方、来年度からは新教育課程の観点別評価で、「主体的態度」も評価対象となり、生徒が主体的に取り組みやすい課題の精選など、考えていかなければならない。
	② 変化の激しい社会の中で、生徒が将来様々な問題や課題に直面しても対応できる論理的思考力や表現力を身につけるように授業改善を推進する。	「授業を通して思考力が高まった」、「授業を通して表現力が高まった」の問いに対して「あてはまる」と答える生徒の平均が A: 50%以上 B: 40%以上 C: 30%以上 D: 30%未満	1 2月 生徒による授業評価結果 「あてはまる」と答えた割合 思考力が高まった: 44.1% (42.7%) 表現力が高まった: 38.5% (37.4%) 平均: 41.3% (40.1%) 【達成度B】	・前年同期と比較すると1.2ポイントの上昇となっている(思考力:+1.4、表現力:+1.1)。学年別では、1年生37.4%、2年生41.1%、3年生47.0%と、3年生が最も高くなっている。 ・本年前期と比較すると、全体で3.3ポイント上昇した(思考力:+3.7、表現力:+3.0)。この傾向は前年度と同じである。 ・総合的な探究の時間における課題探究や、AL(アクティブラーニング)型授業などで、意見交換の場や表現する機会を増やす等、様々な機会を通して、さらに思考力や表現力を高めていく。
	③ 授業やあらゆる学校行事の機会を利用して、自分の意見や調べたことを発言・発表できる場と雰囲気をつくり、失敗をおそれずに応答や意見発表ができる生徒の増加を図る。	「必要な場面で積極的に発言・発表することができる」と答える生徒が A: 55%以上 B: 50%以上 C: 45%以上 D: 45%未満	1 2月 生徒アンケート結果 よくあてはまる : 22.9% (20.6%) おおむねあてはまる : 46.4% (46.7%) 合計 : 69.3% (67.3%) 【達成度A】	・前年同期より全体で2ポイント増加した。学年別では1年生67.3%(前年同期67.6%)、2年生67.8%(同68.2%)、3年生72.7%(同66.3%)となっている。 ・1, 2年生では昨年より微減したが、3年生では6.4ポイント増加した。総合的な探究の時間を3年間実施してきた積み重ねとして、3年生においてポイントが上がったと考えられる。今後も様々な場面を設定して、生徒の発言・発表の機会を増やしていく。
	④ 探究型授業の基盤となる豊かな知識を身につけるため、生徒の読書活動を推進する。また、二水版ビブリオバトル(競技スタイルの書評プレゼン大会)を充実させることにより、的確な発信力の育成にも一層努める。	図書の貸し出し冊数が A: 4,000冊以上 B: 3,500冊以上 C: 3,000冊以上 D: 3,000冊未満	1月末時点 図書の貸し出し冊数 4,245冊(3,538冊) 1年1,769冊、2年1,657冊、3年819冊 【達成度A】	・貸し出し冊数が、昨年度(休校期間あり)同時期に比し、707冊増であり、4,000冊の大台を超えた。 ・昨年度コロナ禍で中止となった集団読書を5月に実施した。また、2年の朝読書、2年GSの取組の一つである「移動図書館」、保健・美術・国語の調べ学習等で、学年・教科と連携・協力を行った。二水版ビブリオバトルは3月下旬に実施を予定している。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で大学でのほとんどの授業がオンライン化されている中、高校でもオンラインの基本的操作等が手当てできないものか。 ・重点目標の一日3時間の学習時間は妥当性があるのか。毎日2時間の勉強でも評価できるのではないかな。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで1人1台パソコンの導入移行に対応してきたが、今後「情報」が大学入試の受験科目に課されることなどから、さらなるコンピューターリテラシーを高める必要がある。 ・部活動などの活動に取り組む状況が、生徒によって違うため、2時間学習を達成することも大変意義のあることであるが、3時間学習は各教科の課題や予習の量に必要な妥当な目標と考えており、生徒の健康維持を第一に今後も取り組みたい。 			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2 進学指導： 生徒の進路意識の成熟を促し、高い目標を強い意志を持って実現する生徒を育成する。	① 3年学年団と協働し、外部模試の判定結果のみに志望校を左右されずに自己の志望を貫ける生徒を育てる。個人面談や学年集会等で年度当初から声かけを励行する。	3年生の9月段階で難関大・金大を志望する生徒が A：65%以上 B：60%以上 C：55%以上 D：55%未満	9月 3年第2回志望校調査 難関大・金大の志望者数 237名 全体の60.6% (228名 全体の58.5%) 【達成度B】	・3年4月の63.4%から8月は60.6%と2.8ポイント減少したものの、志望者数の確保はほぼ達成できた。 ・高い志望を掲げ、その志望を貫ける生徒を育てるためには、1、2年生からの意識づけが重要であり、課題である。
	② 進路検討会や日常の情報交換を通じて、授業や部活動で関係する生徒の成績を把握し、進路志望について助言に努める。	「授業を受け持つ生徒や顧問をしている部の生徒の成績を把握し、進路志望についての助言に努めているか」の問いに対して、「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	12月 教職員アンケート結果 よくあてはまる：37.1% (33.3%) おおむねあてはまる：45.7% (53.6%) 合計：82.8% (86.9%) 【達成度B】	・7月と比べ「よくあてはまる」の割合は16ポイント増加し、積極的な肯定的評価が大幅に増加した。 ・今後も、生徒の志望状況の変化が把握できるよう、進路希望調査や模試ごとに、職員全体に情報提供を行いたい。 ・進路検討会や学年会での情報交換を活発に行い、進路志望について、きめ細やかな助言ができるように、指導体制をつくっていく。
	③ 保護者懇談や保護者対象の進路説明会、生徒への面談をとおして、生徒の進路に関して保護者と緊密な情報交換を行い、信頼関係を築く。特に3年生の保護者には、5月に進路説明会を行い、入試制度改革元年である昨年度の入試結果を丁寧に説明する機会としたい。	「本校の進路指導や保護者への情報提供は適切であるか」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える保護者が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	12月 保護者アンケート結果 よくあてはまる：18.9% (17.8%) おおむねあてはまる：60.9% (60.9%) 合計：79.8% (78.7%) 【達成度C】	・学年別に見ると1年は79.5%、2年79.8%、3年80%であった。7月と比べ、1、2年生はそれぞれ5ポイント程度増加している。オンラインによる保護者進路説明会で保護者に情報提供できたことはよかった。 ・次年度、特に、2、3年生は、これまでコロナ禍で情報提供の機会や種類に限界があったため、進路説明会・保護者懇談での情報提供のあり方を工夫していきたい。 ・全学年とも面談および懇談を丁寧にを行い、教員と生徒間の信頼関係をさらに深めたい。
	④ 担任面談、学年集会、進路講演会、進路説明会等で目標達成に向けての生徒の取り組みを評価し、意欲を高めるとともに、入試対策を充実させることにより進路実績の向上を図る。	現役合格者数が A：金大が80以上かつ難関大が30以上 B：金大が80以上かつ難関大が30未満 C：金大が80未満かつ難関大が30以上 D：金大が80未満かつ難関大が30未満	現役合格者数 金大 79 (84) 難関大 37 (22) 【達成度C】	・金大の合格者数は特別選抜5(学校推薦型2、総合型3)、一般選抜74であった。 ・難関大受験者数は65であり、合格率は56.9%であった ・強い意志をもって進路目標に向かい、それを達成できる学力の育成を図りたい。
学校関係者評価委員会の評価	・金沢大学や他の国公立大学への進学を勧めているが、生徒や親の希望と違ってきていることはないか。 ・我が国は優秀な自然科学の能力を持つ女子が活かされない事態が長く続いていることから、理系女子を増やす試みを本校として取組んではどうか。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・金沢大学や難関大など、国公立大学に進学する生徒が多いが、芸術や他の方面、私立大への志望も尊重して進路指導を行っており、今後も多様な考えや志望を尊重する学校でなければならないと考えている。 ・文系・理系の選択は生徒の意思を尊重し決定しているものの、女子生徒が多い学校であるが故にご指摘の点を参考に指導していきたい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
3 生徒指導・部活動: 人間形成に主眼を おいた生徒指導を 行い、進学校にふ さわしい部活動を 追求する。	① 効率的な部活動による生徒の 学習時間の確保や、学習環境の 整備に努めるとともに、部員が 主体的に活動する指導を工夫 し、技能や成績を向上させる。 部活動で得た自信を勉学につな げ真の文武両道を目指す。	① 「勉強と部活動の両立ができてい る生徒が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 ② 高校総体の学校順位が A: 8位以上 B: 10位以上 C: 12位以上 D: 13位以下	① 12月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 1年: 71.9% 2年: 74.5% (74.7%) (70.1%) 3年: 79.4% 全体: 75.2% (82.7%) (75.8%) 【達成度B】 ② 県高校総体の学校順位 男子17位 女子10位 総合11位 (昨年度は順位なし) 【達成度C】	① 1年が数ポイント低くなっている。2年に関しては昨年度同 一母集団に比して維持、3年は大きく増加している。3年が 高い数値であることは例年同様であるが、1年生の数値の低 さが気かりである。今後も「部活動を3年間、勉強と両立 しながらやり切った」という達成感をもてる部活動を追求し ていく。 ② 昨年度は新型コロナの影響で大会が中止となっており評価で きない。昨年度の部活動の加入率は76%に対し、77%とほぼ 同様であった。部活動を巡る様々な改革、環境の変化、生徒 の気質の変化等も鑑み、それらに適応した運営を考えていく 必要がある。
	② 生徒が自主的に挨拶を行うよ う、教職員自らが積極的に挨拶 を行い、教職員、生徒の自覚を さらに高める。	「挨拶はしっかり行っている」と答える生徒が A: 60%以上 B: 40%以上 C: 20%以上 D: 20%未満	12月 生徒アンケート結果 よくあてはまると答えた割合 1年: 43.8% 2年: 44.1% (39.5%) (34.3%) 3年: 39.2% 全体: 42.4% (39.7%) (37.8%) 【達成度B】	全体では、昨年同期より5ポイント近く増加しており、一昨年 度同様の数値で例年並みである。今後も、近年積極的に挨拶運 動を続けている野球部や、生徒会執行部等の生徒たちを中心と し、教職員も範を示し続けながら、積極的に挨拶を行う生徒を 育てていく。
	③ 本校の「いじめ防止基本方 針」に基づき、いじめアンケー ト、個人面談・保護者懇談や学 校行事等の取り組みを確実に実 施することで、いじめの発生を 防ぐ。	「十分取り組んでいる」と「取り組んでいる」 と答える教員が A: 95%以上 B: 90%以上 C: 75%以上 D: 75%未満	12月 教職員アンケート結果 十分取り組んでいる: 45.7% (58.6%) 取り組んでいる: 50.0% (38.6%) 合計: 95.7% (97.2%) 【達成度A】	昨年同期より1.5ポイント下がっている。日頃の目配り・気配 りに加え、いじめアンケート、個人面談、保護者懇談、各種講 座・研修、ストレス調査、挨拶運動、学校行事、様々な活動に おいて「いじめ防止基本方針」に則った細かな指導と、情報の 早期把握と共有等に力を注いでいく。特に相談室や保健室との 連携を強化し、早期発見、解決に努めたい。
	④ 日頃からの生徒観察をとおし て気づいたことを見過ごさず、 すばやく共通理解を図り、学校 全体が連携して的確な対応を組 織的に行い、心身の調和を基盤 とした生徒の人間形成を図る。	「担任・教育相談室・保健室等と連携し、問題 (悩み)等を抱える生徒の早期発見・早期解決 に努めているか」の問いに対して「よくあては まる」と答える教員が A: 70%以上 B: 60%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	12月 教職員アンケート結果 よくあてはまる: 57.1% (58.6%) 【達成度C】	・ 昨年同期と比べると1.5ポイント下降し、本年前期に比べて も0.6ポイント減少している。 ・ 「生徒の微妙な変化」に、敏感に気づくことができる生徒観 察力を高めるための組織的な支援体制を、構築していきたい。 ・ 「問題(悩み)を抱える生徒や可能性のある生徒」に対する 情報や対応を、関係職員がすばやく共通理解して組織的に支援 する体制を、改善しながら継続していきたい。
	⑤ 保健体育科、部活動顧問と連 携し、生徒自身が感染症予防の 意識を高め、そのための実践が できるよう指導を行い、生徒の 自己管理能力や学校の安全を守 る意識を高める。	「感染症予防のためにゴミの持ち帰りに努めて いる」の問いに対して「よくあてはまる」「お おむねあてはまる」と答える生徒が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	12月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 1年: 92.5% 2年: 97.6% 3年: 97.9% 全体: 96.6% 【達成度A】	感染症対策に加え、ゴミ箱撤去が功を奏し、ゴミの持ち帰りは 定着してきている。ただし1年生が本年前期に比べて2ポイン ト低下したことに留意していきたい。また併せて手指消毒や熱 食等の感染症対策も、大半の生徒が引き続き取り組んでいるも の、感染者数の減少した時期に、緊張感が緩み気味であるこ とも懸念材料である。引き続き、緊張感を持って感染症予防に 取り組んでいく。
学校関係者評価委員会の評価	・ 約2年続くコロナ禍での生徒の様子はどうか。			
学校関係者評価委員会の評価結 果を踏まえた今後の改善方策	・ 生徒はコロナ禍の社会全体の抑圧された雰囲気になげず、充実した学校生活の実現に向け工夫して考え取り組み、実現出来たことが多くあった。学校としては次年度以降もできる限り可能性を追求してあげたい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
4 学校組織： 業務の効率化を進めつつ高い使命感を共有しよりよい教育活動を追求する。	タイムマネジメントについて意識を高め、業務の見直しや会議運営の効率化、ICTスキル向上等により職員のワークライフバランスを図り、教育活動の質を高める。	「効率化やタイムマネジメントを意識した業務の遂行に努めている。」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が、 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	12月 教職員アンケート結果 よくあてはまる : 30.0% (31.4%) おおむねあてはまる : 54.3% (52.9%) 合計 : 84.3% (84.3%) 【達成度A】	・本年前期と比べ、「よくあてはまる」は6.1ポイント、「おおむねあてはまる」は3.6ポイント増加し、全体として昨年同時期と同じ84.3%の職員が効率化やタイムマネジメントを意識して業務に取り組んでいる。 ・次年度は、新学習指導要領の年次進行や一人一台端末導入による授業対応が加わり、教職員の負担増が想定されるが、教材の共有化や定型業務のマニュアル化などを行うことで、業務の効率化に引き続き努めていく。
学校関係者評価委員会の評価	・超過勤務時間が80時間を超える教員が減少したことは評価できる。どのようなことに取り組んだのか。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・今年度は月1回の定時退校日を設けて定時退庁を促したほか、退庁時間を30分繰り上げるなどの対策を行ったことが、職員のタイムマネジメント意識をさらに高めた。次年度以降もワークライフバランスに繋がる対策を充実させていきたい。			